



平和行進 世界大会の成功へ

東日本 被災者支援・被災地復興の取り組み強化も 日本原水協常任理事会開く
大震災

日本原水協第295回常任理事会（各県と中央組織の代表等で構成）が、4月26～27日東京で開催されました。会議には44都道府県、14中央団体、個人理事等75人が出席しました。

今回の会議は、広島・長崎の被害の救援を原点の一つとして立ち上がった原水爆禁止運動として震災復興と被災者支援の取り組みの強化を図ること、目前の2011年平和行進、地域ぐるみの運動をすすめる「核兵器全面禁止アピール」署名、3カ月後に迫った2011年原水爆禁止世界大会の成功、非核平和の日本への転換を目指す取り組みなどについて議論する会議として開催されました。

会議では福島原発の事故を受け、原発＝原子エネルギーと原水爆禁止運動について深い討論が行われました。原発と核兵器が無関係ではないこと、原発事故による被曝者を出さないこと、原子エネルギーの賛否でなく『核兵器廃絶』の一致点で行動を広げることなど意見が出されました。

今回の事故で核（放射能）の恐ろしさが国民共通の



第295回常任理事会＝4月26日・東京

認識となり、核兵器廃絶の署名も新たな広がりを見せていることなどが出されました。岩手、宮城、福島代表は「平和行進をやりぬく」と決意を表明されました。

2011年平和行進県実行委が発足

7月16～26日 全自治体網羅の行進めざす

2011年国民平和行進岡山県実行委員会が結成されました。4月13日に開かれた実行委員会には10組織、地域原水協から11人が参加しました。

会では2011年度の実行委員会の発足を確認し、会の代表に河重寛子（県母連）、花田雅行（県労）、中尾元重（原水協）の3氏を選出。2011年の取り組みを確認しました。東京―広島コースの岡山県到着は7月16日、広島への引渡しは26日。この間県内全ての自治体を網羅する網の目行進、訪問行動をあわせて実施します。

この日の会議では岡山県内行進のコースの概要が確認されましたが、第3日目（19日）の昼食休憩場所の変更、7日目（22日）の午後のコースの若干の変更と最終地を倉敷市船穂支所とすること、8日目（23日）午後のコースの若干の変更と休憩所の変更、9日目（24日）午前中のコースの若干の変更等が出されました。岡山市内のコースについていろいろな意見が出されましたが、「昼休みを利用しての被爆者証言」はぜひ残してほしいという意見があり、市原水協でコースを確認することになりました。今年



2010年7月22日の平和行進（霞橋）

は東京からの通し行進者は1人です。県内通し行進者を募集しています。

次回実行委員会は5月26日（木）pm6:30～県労会議室で開催します。

新署名の運動と平和行進、世界大会の成功をめざして

県原水協2011年度総会

2011年5月21日（土）13:30～
岡山勤福センター4F